

令和2年4月30日

各位

株式会社 徳
ノリックス有限会社・有限会社和公
代表取締役 鷺岡和徳

前略、今月も業務に専心いただきありがとうございます。

現在、私たちは新型コロナウイルスによる緊急事態宣言など全世界を巻き込む未曾有の危機に直面しています。当社も例に漏れず一部店舗の休業や営業時間の短縮などを余儀なくされています。

お客様からの注文予約も大きく減少していることでパートアルバイトのスタッフの皆様には出勤シフトの変更を含め多岐にわたりご迷惑をおかけしておりますことお詫び申し上げます。

徳本社スタッフは現在の閑散期中、ピンチをチャンスに変えるべくそれぞれの役割の中でできる限りの動きを進めています。特に営業部門では在阪百貨店や商業施設、大手企業、ホテル等との契約がどんどん進んでいます。今回の問題が解決すれば大きく事業拡大が期待されることと思います。

さて、日本を代表する名曲で【荒城の月】という歌があります。

「春高樓の花の宴 巡る盃かげさして 千代の松が枝わけ出でし 昔の光今何処」という歌詞です。
訳として（春、城内では華やかな花見の宴が開かれている。回し飲む盃に月影が映る。千年の古い松から差し込んでいた栄華を映した光は今何処にあるのだろうか）

この歌を読みながら私が感銘を受けるのは、私たちが生きていく世界には常に変わっていくものと変わっていかない普遍のものが、この短い詩の中でその対比がくっきりと表現されていることです。

私たちはつい必死でお金や名誉などを求めようとしますが実は同時に心の深い部分ではそのはかなさをよく知っています。そういったものは決して永続しないと知っていながらそれを求めようとしてしまいます。しかし一方で自然の摂理や秩序はどんなに時代が移ろうが変わることはありません。朝が来れば必ず夜が訪れますし、コロナウイルスが蔓延しても桜は咲き誇ります。

考えれば人間の命そのものも大自然によって与えられたものであり私たちはその一部であると言えます。この日本の名曲を読むと昨今の新型コロナ禍（か）の中で私は自然の恵みや人とのつながりをより一層意識し、私たちの人生の中で起こることには必ず意味があると今更ながら確信いたします。

*スタッフの皆様におかれましてはより一層健康に留意し、手洗い・うがいの励行をお願いいたします。

【徳の経営理念】

「私たちはお客様のために常に新しいことに挑戦し、食生活に新たな価値を創造しつづけます。」

【徳のモットー】

「一膳入魂」～うまい料理は世の為、人の為～
すべては自分のために。
すべてはお客様のために。
すべては会社のために。
すべては社会のために。

来月も一緒に頑張りましょう

草々